

ささえあい

No. 80

さえき社協だより
ボランティアセンターだより

編集・発行：平成22年(2010年)春
社会福祉法人 広島市佐伯区社会福祉協議会

〒731-5135 広島市佐伯区海老園2-5-28
佐伯区役所附属棟
TEL (082) 921-3113・FAX (082) 924-2349
E-mail : saeki@shakyohiroshima-city.or.jp

地域のボランティア活動を応援している 各種助成団体

あなたも
助成金を活用して
みませんか！

問合せは
ボランティアセンターへ

助成金で活動が広がる

昨年11月、NPO法人「中央・幸工房」がみずほ教育福祉財団から軽自動車（エコカー）1台の贈呈を受けました。出かけるのが困難な高齢者や障がい者に、美味しいお弁当を届けたい、また配達することでふれあいができればとの思いから配達用車両の申請をしました。代表の佐藤さんは、「申請はしてみたものの車をいただけるとは思っていなかったので嬉しい」と喜びでいっぱいです。



NPO法人 中央・幸工房

心に病を持つ人たちが安心して社会復帰の準備をする場として、平成14年4月1日に開所し、平成20年11月27日に特定非営利活動（NPO）法人を取得しました。

作業内容は、主に地域の方々への昼食の提供（食堂）やお弁当の配食サービス、惣菜販売などで、通所者とボランティア、スタッフに支えられて運営しています。

昼食提供や配食サービスは、毎週火～金曜日の週4日行われており、民生委員の紹介による高齢者、障害者、病後の方などの元へ、いただいた車も使用して配達しています。

お弁当は、1日平均50食を届けています。

広島市佐伯区五日市中央4-15-49-1
TEL (082) 923-6226



＝シリーズ第6回＝ わたしのまちのほっとサロン

現在、ご近所同士で気軽な話など交流の出来る場＝サロンが区内73ヶ所に設けられています。そうしたサロンの紹介レポート第6弾をお送りします。

みんなが楽しむことが原動力

湯来地区 「ほがらかサロン」

湯来地区では、現在26の“いきいきサロン”が開かれています。

今回ご紹介させていただく「ほがらかサロン」は、湯来の中でも南よりの、「白砂米」が有名な重光地域で開かれています。

参加者の平均年齢がまだ63歳と若いこともあり、年間3～4回、お花見などの外出プログラムを開催しています。

度重なる外出となるとお金のことが心配になりますが、「ほがらかサロン」では、各回の参加費と別に1回300円の積立金を集めたり、アルミ缶などの家庭で出るリサイクル資源を持ち寄り、事業所に買い取ってもらったりして外出時の負担を少しでも軽くできるよう工夫されています。

このことについて、「ほがらかサロン」の吉田さんは、「皆が楽しめることだから、自然とそうなったんよ」と楽しそうに言われます。

また、サロンを始めて「地域内の交流が深まり、「安心・安全」な生活にもつながっているのよ」と言われ、地域の「わ」が広がっていているのを実感されています。

「皆が楽しむ気持ちを原動力に、長く活動し、地域の「わ」を拡げていきたい」とサロンに参加されている方たちは言われていました。



みんなが主役

五日市中央一丁目「活き活きサロン」

五日市中央地区社会福祉協議会では、町内会ごとの小地域で月1回開催するサロンとあわせ、地区を4つのブロックに分けた比較的広域のサロンを、それぞれ年1回開催されています。

平成22年2月17日(木)に開催された、五日市中央一丁目ブロックの「活き活きサロン」を訪問しました。

最高気温が8℃と寒かったこの日は、約30名の参加と少なかつたようですが、「例年は50名くらい集まるんよ。みんな楽しみにしているからね」と教えていただきました。

午前中は、佐伯区役所の保健師による血圧測定や健康についての話、五日市地域包括支援センターによる健康体操・脳活性化ゲーム、広島西警察署による交通事故防止の話と盛りだくさん。かたい話？のなかにも笑いがあり、終始和やかな雰囲気。その後は、会食・余興ということで、地域の方が手品に舞踏と披露されました。

舞踏に合わせて体を動かしたり、「タネはどうなるとるん？」と、手品道具を調べる一場面も。

「この地域には芸達者が多いね」と地域福祉推進委員の田畑さん。“みんなが主役”といった温かみを感じるサロンでした。



「おやっこさえき」 子育て応援講座

受講者
募集中

常設親子交流の場「おやっこさえき」は、子ども達と保護者が一緒に遊んだり、交流できる場所を作ることを目的に、佐伯区役所内で開設しています。

「おやっこさえき」を応援し、一緒に活動して下さる方を募ることを目的に下記のとおり講座を開催いたします。

皆さん、ふるってご参加ください!!

日時・内容

日時	内容
4月20日(木) 10:00~12:00	・オリエンテーション「おやっこさえき」について ・体験談「参加者、活動者から」
4月21日(木) 10:00~12:00	・講義「応急手当について」 「長く活動を続けるために」
4月22日(木) 10:00~12:00	・「おやっこさえき」を見学してみよう ・交流会「講座をふりかえって」

会場：佐伯区役所 6階 大会議室（広島市佐伯区海老園二丁目5-28）

対象：「おやっこさえき」の活動や子ども、子育てに関心のある方

参加費：無料 定員：30名（先着順）

申込先方法：平成22年4月16日金までに佐伯区地域子育て支援センターまでお電話にてお申し込みください。

お問合せ・申込先：佐伯区地域子育て支援センター
電話（082）921-5010



新たな活動ステージへ

～講座から生まれる新しいボランティアグループ～

平成22年2月6日(土)～27日(土)までの4日間、定年退職された方や早期定年退職された方を対象とした、シニアボランティア入門講座＝さえき気楽塾＝を開催しました。それまで仕事で培われた知識や技術を、今度は地域で活かしていただきたい、そんな思いから実施した講座です。

1
日目

1日目は、広島県余暇プランナー協会会長の山崎第三氏による『上手な地域デビュー法』で、退職後に与えられた余暇時間をいかに上手に活用し、わくわくドキドキする余暇活動を見つけていくかを、様々な事例を聞きながら学びました。

2
日目

2日目は、ひろしまレクリエーション協会会長の鍋島一仁氏による『心の元気の作り方～自由、面白い、創造がモチベーションを高める～』で、どこでもすぐ使えるレクリエーションをいくつか体験しながら、心の元気がもたらす効果の大切さを学びました。

3
日目

3日目は、この講座企画に長く協力してくださった、講座企画委員の皆さんが手作りによる紙芝居を披露。とても盛況でした。そして、各委員さんの活動内容の報告をしていただきました。

4
日目

4日目(最終日)では、実際どんな活動をしたか皆さんで話し合っていました。その結果、地域での困りごとを解決する「お助けグループ」と、施設を訪問しての紙芝居や音楽演奏、そして外出を支援する「お出かけグループ」が候補に挙がりました。

講座はこの日で終了ですが、これは終わりではなく始まり。3月27日(土)に同窓会を行い、その際に今後のグループ活動の具体的な方向性を考えていきます。これから定期的に活動して、地域の実力になるよう期待されています。

佐伯区内の
ボランティア
グループが

ゲストティーチャとして小学校で活躍しています

平成22年2月16日(火)、五日市南小学校の4年生3クラス

で手話学習が実施され、佐伯区ボランティアセンターに登録されている手話サークル「てまり」の皆さんが講師として学校に招かれました。体育館では、ろう者の小松忠子さんに生活する上での困りごとや子ども達がお手伝いできることなどについてたくさん教えていただきました。

子ども達は、障がいの理解を学習すると同時に、みんなで支えあう優しい気持ちを身につける事ができたようです。

また、佐伯区ボランティアセンターに登録の、視覚障害者を支援しているボランティアグループ(音声訳や点字)が、区内の小学校でアイマスク体験や点字体験の講師として活躍しています。



手話サークル「てまり」の皆さん

児童は初め、手話で会話ができることが理解できなかったようですが、手話を学ぶ目つきがだんだんと変わり、手話で自分の名前を表すことが出来るまでになりました。最後はみんなで「ピリブ」を手話で歌うことが出来ました。

点字グループ交流会をしました

平成22年2月12日(金)、廿日市市の点訳グループ「あい」と交流会を行うことが出来ました。点訳物を届けていた視覚障がいの方が、病気のため廿日市市の居宅介護支援施設へ転出されたのがきっかけです。廿日市市の点訳グループとの連携を模索していたところ、社協の発案で交流会を行うことになりました。

当日、「あいプラザ」を見学した後、お互いの活動を紹介しあい、質疑応答や意見交換を行いました。活動のレベルアップや活性化に大いに役立ったと思います。

サプライズはありませんでしたが、「あい」さんの点訳に取り組む真摯な姿に共感を覚えました。

今回の交流会をとおして、他のグループとの交流はお互いに刺激しあい活性化につながることを改めて実感しました。この出会いを大切に、これからもグループでの活動を頑張っていきたいと思っています。



廿日市市と
佐伯区
区域を
越えて

点字グループ 佐野 繁喜

